

科目名		建築概論			
担当教員		田中 みちよ		実務授業の有無	有
対象学科		電気電子工学科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築物は電気設備がなくては建築の使命を果たすことができない。 建築で使われる用語は独特で戸惑うが、その用語を知らずして快適な空間を造り出すことは不可能である。 仕事上で事故やミスを回避するためにも、電気技術者として知っておくべきことを学ぶ。 また、2級電気施工管理技術検定試験に関連する建築的内容も盛り込みながら進めていく。			
学習目標 (到達目標)		低圧屋内配線工事に関連する建築および建築設備の基本知識を得る			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		配布プリント、データによる写真閲覧			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	建築で用いられる単位			建築業界では現在も日本古来の単位(尺貫法)が用いられている現状を踏まえ、社会で戸惑うことがないように習得を図る。メートル法と尺貫法の換算ができるようになる。	
2	建築構造の分類			テレビCMなどで目にするハウスメーカーを例に取り、建築構造の分類を学ぶ。	
3	建築生産工程			建築物の計画から工事竣工までのプロセスを知る。	
4	木造在来軸組工法の各部について			建築物の中でも圧倒的多数を占める木造在来軸組工法にもとづき各部位の独特な名称とその仕組みを知る。	
5	木造在来軸組工法における電気工事			木造住宅における電気配線工事の実例から注意点を学ぶ。建築構造の視点で、してはいけない配線工事の理由を理解し、応用することができる。	
6	住宅の断熱と省エネルギーについて			断熱気密性能が住み心地に直結して分かりやすい、住宅の断熱気密と日射の制御を知ること、建築物の省エネルギー対策を理解する。	
7	N I T 校舎内の建築設備			N I T 校舎を実例に、ビル建築における建築設備の役割と機能を理解する。	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題			建築は職業的に関連性が高い分野である。常に暮らしの中に存在しているので、興味を持って建築を意識してほしい。 遠慮せずに気軽に質問してほしい。	
10 %	90 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		建設会社及び建築設計事務所(自営)で、施工管理・積算・品質管理の実務29年			